

10月の「どんぐりsカフェ」から

## 行動する女性、国境を越え多彩な活動

10月15日の「どんぐりsカフェで」は、「女性とまちづくり～女性100人委員会が目指すもの」と題して、代表の飯田知恵子さんが講演した＝写真。60歳で勤めを辞め、地域のボランティア活動に携わる中で、「高蔵寺ニュータウンが孤独死や建物の老朽化といった暗いイメージばかりが先行しているが、普通の女性たちの生き生きとした日々の暮らしや活動が見落とされている」ことに気づき、「行動する女性（＋男性）100人委員会」を立ち上げたという。活動としては月1回のESDフォーラム、カナ



ダ・ケローナ市との教育・文化・観光・産業などの国際交流をはじめ多面的な活動を展開している。これからの活動としてシングルマザーの支援も検討中という。この日は、春日井市の職員や名古屋女子大学の北原先生と2人のゼミ学生をはじめ多彩な顔触れがみられ、100人委員会の活動への賛辞が寄せられた。（藤城 栄一）

どんぐりsから

●平成28年4月1日現在の高蔵寺NTの高齢化率（人口全体に占める65歳以上の人口の比率）は、31.7%である。平成27年10月1日の我が国の高齢化率は26.7%（平成28年版高齢社会白書による）なので、それを上回っていることは確実である。なお、高蔵寺NTのデータを町丁目別にみたところ、石尾台2丁目（56.2%）、石尾台4丁目（51.1%）、押沢台6丁目（50.3%）の3町内のように既に高齢化率が50%を超えている町内もあれば、逆に岩成台3丁目（17.2%）、高座台2丁目（21.3%）、高森台3丁目（20.7%）、藤山台4丁目（21.0%）のように22%未満の町内もあるなど、大きな違いがあることが判明した。

●当然のことながら、それぞれの住民意識も異なるし、地域が抱える課題も異なる。高蔵寺リ・ニュータウン計画の実行や現在審議が始まっている春日井市の総合計画策定においては、こうした状況を充分踏まえつつ、検討されることを期待したい。（藤城 栄一）

### 11月の「どんぐりSカフェ」

テーマ マイナンバーって何？  
講師 宮崎英介氏（春日井市総務部情報システム課課長補佐）  
浜田竜吉氏（同課主査）  
日時 11月18日（土）13：30～16：00  
会場 東部ほっとステーション（サンマルシェ南館1階） 参加費：無料

### 高齢者のすまい&暮らし面接相談

●まずはお電話ください  
080-4540-3553（どんぐりS事務局）  
面接相談会日時 11月13日（日）、27日（日）  
ともに13：30～16：00  
会場 東部ほっとステーション

### 11月の「大人のたまり場」

●まずはお電話ください：080-4540-3553  
日時：11月9日（水）、23日（水）  
ともに13：30～16：00  
会場：「いつだって いま」（高森台6丁目東高森台集会所そば）参加費：300円

## 「花咲か基金」順調な船出 大村知事・伊藤市長も激励

高森台県有地内の高齢者福祉施設「どんぐりの森」で10月5日、「高森台県有地の活用を提案する市民の会」が除草や草花の手入れを行ったが、たまたま近くで行われた「無人タクシー試乗会」に参加していた大村秀章知事と伊藤太春日井市長がそろって作業現場を訪れ、作業の状況や「ハナモモ桃源郷プロジェクト」について説明を受け、メンバーを激励した。行政トップに関心を持たれたことは、今後の活動に一層の追い風となると期待される。

また、9月からスタートした「花咲か基金」募

### 私の朝・昼・晩

105歳の日野原重明さんに思う  
朝日新聞土曜版「be」に2002年から毎週、  
医師の日野原重明さんのコラム「105歳・  
私の証 あるがまゝ行く」が連載されている。  
以前は時々拾い読みする程度だったが、最近  
は毎週必ず読むようになった。後期高齢者に  
仲間入りした私は、年を取るにつれ、日野原  
さんに興味を持つようになった。91歳から  
14年間もの間、毎週900字ほどのコラムを  
書き続けているとは、正に驚きである。内容  
は多岐にわたり、若い頃の話から最近の思い  
や出来事まで、しっかりと正確に書かれてい  
る。この人には頭脳の老化は無縁なのだろう  
か。10月22日には、「いのちという宝船に  
のって」と題して印象的な文章が載った。紙  
幅に限りがあるので、その一部を以下に紹介  
して終わりとしたい。

「105歳を迎える私の微妙な心情をたと  
えるなら、『いのちという宝船に乗っている』、  
そんなイメージです。この船には強力なエン  
ジンがあるわけでもなく、積み荷もわずかで  
す。けれど大きなうちわで風を送る程度の動  
力でも、静かにゆっくり進んでいくことがで  
きるのです。そんな船でも海原へ出れば、私  
にとっての新しい世界が目の前に、一つまた  
一つと広がっていきます。この先には大きな  
嵐が待ち構えているかもしれませんが、それ  
でも私は宝物を載せているような満ち足りた  
思いで、今日に至るまで、大海原での航海を  
続けているのです」  
(山上 薫)

集チラシは現在800枚程度配布した。その結果、  
10月末現在60名を越える方々からご寄附の申  
し出でをいただいている。実に7.5%の方にご協  
力いただいていることになり、プロジェクトに  
かける市民の期待の大きさがうかがわれる。13  
名の方には今後の植栽や手入れなどのサポーター  
の申し出でをいただいている。(寺島 靖夫)



北からの使者 (長野県安曇野)

森 健

### グループインタビューで意見交換

春日井市企画政策部と「どんぐりs」との  
「グループインタビュー」が10月29日に高森  
台の「コミュニティプラザ」であり、活発な意見  
交換を行った。市から勝企画政策課長と亀田同  
課主査、「どんぐりs」は藤城理事長ら役員8人  
が参加。市側が策定中の第6次総合計画について  
狙いや経過などの説明を行った。市民会議側か  
らは「人口減少時代の自治体間競争は存亡をか  
けた厳しいものになる」「定住者増加には給食  
費無料化や子供の医療無償化などインパクトの  
ある施策が必要」「2世代、3世代世帯の市内定  
住に住宅補助金を出すなどの工夫も欠かせない」  
「買い物、通院など移動手段確保のために民間  
の力を活用すべきだ」などの意見が出た。

### ミュージックジャンボリーに出店

体育の日の10月10日にグリーピア春日井で  
開かれた恒例の高蔵寺ミュージックジャンボリー  
(KMJ)に、「どんぐりs」も傘下団体の  
「生き生き楽農会」が中心となり出店しました。  
会員の育てたサトイモやサツマイモなど有機栽  
培の安全な野菜と天然酵母のアンパン等を並べ  
た。天候にもめぐまれ参加者も多く集まり、昼  
過ぎにはほぼ売り尽くしました。